

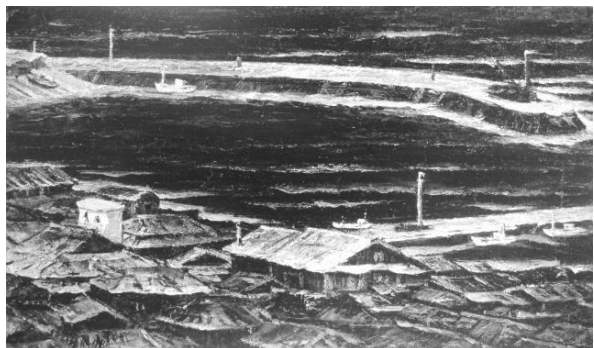
# 全国で活躍する上関町出身者(2) 画家・難波平人さん (白井田出身)

《表面からのしき》

◎祝島に通われていた頃の思い出はありますか？

じいじは、20歳の頃に、「画家として生きていくためには、成果を出さないとけない、入選しないとけない。」と考えて思い悩んでいた時期があったんです。周りの若者は青春を謳歌して楽しんでるのにいるのに、自分には心休まる時が無く、もう絵をやめようと思ったんです。

それで、絵をやめるための条件を整えて、故郷の白井田に帰って、釣りをしたり、野球をやったりしたんですが、何をやっても心が晴れない、楽しくないんです。それで祝島に行ったら、俄然「絵を描きたい！」という強い衝動に動かされたんです。それから、もう迷うことなく絵を描き続けました。



広島市南区民文化センターの陶板壁画になっている作品『海』は、祝島の風景を描いたもの

◎世界中を旅して、集落の絵を描かれていますね

集落には、自然や歴史の荒波と闘い続けた人の営みが刻まれています。私が描きた



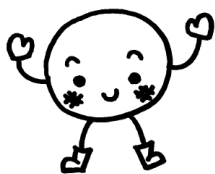
高知県沖ノ島の風景に、故郷白井田の夕日の美しさを重ね合わせて描いた作品『集落(西日)』(昭和59年 安井賞展出品作)

いのは単なる風景ではなく、そこで生きていく人間のたくましさです。

それは祝島の練堀の町並みを見て強烈に感じたものです。祝島以上に魅力的な集落を求めて、20年かけて日本の海岸線を巡り、全国の漁村の集落の絵を描きました。心に残る魅力的なところはたくさんありましたが、祝島の魅力を超える場所は見つけられませんでした。

次に、もっと素晴らしいところを求めて、外国に旅立つことになりました。モロッコやイタリア、トルコなど、今までに94か国を回り、集落や遺跡の絵を描きました。これからも世界を巡って、血が騒ぐような風景を描き続けたいですね。

※世界中のどのような魅力的な地を訪れても、やはり「ふるさと上関」の風景が胸をよぎると言われる難波



平人さんの作品は、どの絵を観ても、「これは白井田? 祝島?」と感じさせるよう

なところが多々あります。

ずっしりとした筆感で集落の力強さを描き尽くされる個性。これらの絵をもってしてもまだ「他の誰でもない、自分の作品を描きたい」と思っておられる難波先生の新しい作品が、早くも楽しみます。

いつか上関町でも作品展を開催していただけると嬉しいですね。

## ◆「波の会展」を鑑賞して

先の5月19日から24日まで、難波先生と奥様の英子先生が主宰された「波の会展」が広島県立美術館で開催されました。

「波の会」とは、難波先生の「波」の文字から名付けられた会で、1992年(平成4年)に先生の絵画教室の生徒が集まり、教室展を開いたことに始まり、そこに英子先生の生徒も加わり、徐々に会員が増えていったのだそうです。



「波の会展」会場の様子

今回で24回目となる「波の会展」では、お二人を含めた136名による、196点の作品を鑑賞させていただきました。初心者から経験豊かな方の作品が、油彩画を中心に水彩画、アクリル画など小さな作品から130号(940mm×1620mm)という大作まで、広々とした会場に多彩に展示されており、額縁・タイトル・展示方法にも、それぞれの個性が活かされていたように思います。技法や色使いのみならず、版画絵、絵手紙と

いった自分らしさが満載の多くの作品・観ている者の想像力までが豊かになる気がしました。上関町在住の方の作品も4点出展されていました。



難波先生が案内をしてくださりました

贅沢にも難波先生が1つ1つの作品についてお話しくださったおかげで、描かれた方の思いが一層強く伝わってきたように感じました。強い個性をお持ちの難波先生でありながら、描き手のイメージや気持ち表現できることを目標に、個性を尊重しながら指導される難波先生のお考えをお聞きし、「わたしも絵を描いてみたい」とまで思えた素晴らしい空間に触れさせていただいたこと、この日の多くの繋がりに感謝いたします。



難波先生の作品の前で記念撮影

## ◎難波平人さんの絵画が 収蔵されている場所

[国内] 箱根 彫刻の森美術館 / 広島県立美術館 / 東広島市立美術館 / 広島大学 / 広島市南区民文化センター など

[海外] アンカラ大学(トルコ) / ガジ大学(トルコ) / トルコ日本大使館 / ヴィアンキ美術館(イタリア) / マケドニア・オーリツシ国立美術館 など

◎「わいわいタイムス」7月号は7月5日(日)発行予定です。